

お客様情報



京王電鉄バス株式会社
東京都府中市晴見町2-22



京王グループのバス会社として、各方面への高速バスや、関東西部を中心とした路線バス、深夜急行バス、貸切バスを運行する京王電鉄バス。「常にお客様が主役です」をキャッチコピーに、1913年の開業から数え100年にわたって安全・快適で良質なサービスを提供し続けている。

導入製品



導入効果



導入決定から稼働まで
わずか1カ月



数千万円
の開発費削減



管理負荷を
数十分の1に削減

バスの安全運行を支える基幹系システムと フロントの業務アプリケーションを DataSpider Servista で連携

レガシー化した基幹系システムをモダナイズし、そこに格納されたデータをフロントの業務アプリと連携することの重要性が増している。京王電鉄バスでは、アプレッソが提供するデータ連携ツール「DataSpider Servista」を使って、基幹系システムから抽出したデータをフロントシステムの「kintone」で活用。さらに基幹系システム同士の連携や、安全運行の確保に向けたIoTへの取り組みにも着手している。

背景 ▶ 安全運行に欠かせない基幹系システムがレガシー化

京王グループのバス会社として、各方面への高速バスや、路線バス、貸切バスなどを運行する京王電鉄バス。「常にお客様が主役です」をキャッチコピーに、安全・快適で良質なサービスを提供し続けてきた。

そんな同社は稼働から30年以上たった基幹系システムの運用管理の課題に直面。AS/400で開発されたシステムは設計者の退職などで柔軟に改良することが難しくなっていた。また現場では、Excelを中心とした個別のシステムが開発され、手作業での運用が負担になっていた。そこで2011年から基幹系システムの刷新に取り組み、現場で用いる業務アプリケーションについても、サイボウズのkintoneを使って内製化を進めたのだ。

京王電鉄バス 管理部システム業務推進担当 課長の虻川勝彦氏は、プロジェクトのねらいについて「重複入力を排除し、常に最新のデータを使いながら、ビジネスニーズに迅速に対応することを目指しました」と話す。

ただ、内製化の取り組みを進めるなかで新たな課題も見え始めていた。常に最新のデータを活用するためにはさまざまなシステムと高頻度で連携することが求められるため、手作業での処理を減らし自動化する仕組みが求められてきた。

導入 ▶ 内製化と自動化で数千万円の開発費削減を見込む

「データの鮮度を保つために、社内のデータベースやファイルをAPIを通じて連携させる製品を探し始めました。そんなときに出会ったのがDataSpider Servistaだったのです」と虻川氏は振り返る。

同社がDataSpider Servistaを選定した理由のひとつは、限られたシステム予算のなかで基幹系が多くの割合を占め、現場では個別にExcelを活用した運用に頼っている状況があったことだ。予算内でデータ連携の自動化・鮮度向上を実現する必要があり、それに適した製品を探していた。

京王グループの「人事給与システム」更改や点呼システム導入の話が持ち上がったのはそんなタイミングだった。虻川氏は、将来的な基幹連携のツールとしてDataSpider Servistaを全面採用することで、開発生産性を高め、限られた予算のなかで最大の効果を挙げられると考えた。

DataSpider Servistaの試使用を開始したのは2016年3月。まず、点呼システムのデータ連携処理から検証した。点呼システムとは、バスの運転手が出勤時と乗務開始時に実施するアルコールチェックや血圧測定などを管理するシステムだ。

同部 システム業務推進担当 課長補佐の松尾宏紀氏は、点呼システムの要件について「運転手の健康状態はおお客様の安心と安全に直接関わります。すばやく、漏れなくチェックできるような連携処理が求められました」と説明する。

また、内製化により構築コストと運用負荷を大幅に下げられることも確認できた。基幹系システムにはさまざまなデータが格納されており、従来は、月末月初など特定の期間を決めて手作業でデータ連携の処理を行っていたが、そうした処理のほとんど



各システムのインタフェース開発ではインタフェースごとに数百万円かかることも見込まれます。DataSpider Servistaがひとつでそれを巻き取れるので、非常に良い買い物でした。

—京王電鉄バス
 管理部 システム業務推進担当 課長
 虻川 勝彦氏

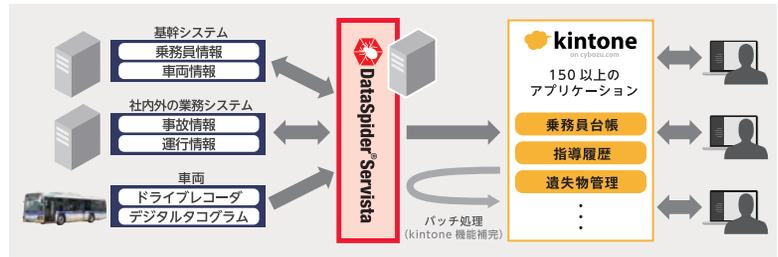


京王電鉄バス
 管理部 システム業務推進担当
 課長補佐
 松尾 宏紀氏

を削減できるとわかったのだ。

虻川氏は「各システムのインタフェース開発ではベンダーに依頼すればインタフェースごとに数百万円かかり、全体で数千万円になることも見込まれます。DataSpider Servistaがひとつでそれを巻き取れるので、非常に良い買い物でした」とコスト効果が高く、開発コストを削減できるのが、一番の決め手だったという。

システム構成図



効果 バスの安全運行を支える重要な連携基盤

京王電鉄バスでは、これまでに約10個のシステムと連携するために22本のインタフェースを開発したが、プロトタイプ作成が簡単にでき、それをほかの開発に流用することで開発生産性を大きく高めたという。点呼システムでまずプロトタイプを作り、有用性を確認したうえで、ほかの案件についてもDataSpider Servistaを活用するといったように横展開していったのだ。いまでは、同社の業務アプリケーションの数は150超に達し、さまざまな製品と連携できるDataSpider Servistaの特徴も生かしたかった。

DataSpider Servistaは、各営業所から入力された事故情報を集約してバス運行に役立てる「事故管理システム」や、ドライブレコーダーやデジタルタコグラフのデータを収集する「運転管理システム」など、バスの安全運行を支える重要なシステムの連携基盤としてフル活用されている。具体的な導入効果としても、導入コスト削減のほか、自動化によって管理負荷を数十分の1にまで削減し、新しいアプリケーションの開発生産性を数倍にまで高めた。

DataSpider Servistaを使ってシステム連携基盤を構築した京王電鉄バスは、この連携基盤を活用して顧客価値をさらに高めるためIoTへの取り組みもはじめている。

車両に設置された機器や、運転手の健康状態チェックなどからはさまざまなデータが得られる。たとえば、車両情報のデータ取得頻度を上げることでリアルタイムの故障検知が可能になる。また、バスの運行状態と運転手の健康状態の変化を組み合わせることで、危険運転が発生しそうなバスを予知できる可能性もある。

虻川氏は「気象情報や道路交通情報ははじめ多くのデータが、オープン化・API等でリアルタイムに連携されるようになりました。こうしたデータを組み合わせることで、これまでにない使い方が可能になります。試行錯誤しながら活用の道を探っていくとしています」と今後に期待を寄せる。

- HULFT、その他HULFT関連製品は、株式会社セゾン情報システムズの登録商標または商標です。
- DataSpider Servistaは、株式会社アプレッソの登録商標です。
- kintoneはサイボウズ株式会社の登録商標です。
- 記載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本カタログに記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示 (TM、®) を付記していません。

HULFT 株式会社 セゾン情報システムズ

HULFTフリーダイヤル ☎0120-80-8620
 ※利用時間 9:30~17:00 (土・日・祝日および年末年始を除く)
 URL www.hulft.com e-mail info@hulft.com

HULFT事業部
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
 赤坂インターシティAIR 19F
 TEL 03-6370-2310

中部事業所
 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-14-19
 住友生命名古屋ビル 21F
 TEL 052-588-5591 FAX 052-588-5592

HULFT Pte. Ltd.
 80 Raffles Place, UOB Plaza 1, #36-15
 Singapore 048624
 TEL +65-6248-4625 FAX +65-6248-4501

Saison Information Systems CO., LTD
EMEA Office
 6th Floor, First Central 200, 2 Lakeside Drive
 London, NW10 7FQ, United Kingdom

西日本事業所
 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-5-16
 肥後橋MIDビル 4F
 TEL 06-6479-1151 FAX 06-6479-1152

九州サテライトオフィス
 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前2-19-27
 九勤博多駅前ビル
 TEL 092-434-4527 FAX 092-434-4528

HULFT, Inc.
 1820 Gateway Drive,
 Suite 120 San Mateo, California 9440480
 TEL +1-650-393-4930

世存信息技术(上海)有限公司
 中国上海市长宁区天山西路1068号D栋3楼B单元
 TEL +86-21-6239-9201 FAX +86-21-6239-9321

このカタログの記載内容は、2017年3月現在のものです。本カタログの記載内容は予告なく変更することがあります。

201704-3000-1